

第1回大井町総合計画審議会 概要

日 時：平成27年2月5日（木）

午前10時～午前11時40分

場 所：大井町役場301会議室

出席者：清水豊司委員、鈴木武夫委員、橋本淑子委員、植松清治委員、鈴木治二委員、手戸雄吾委員、小島章委員、瀬戸二郎委員、山地裕昭委員、香川麗子委員、西山健一委員、熊澤博之委員、君塚喜一委員

欠席者：芦川智委員

事務局：伊藤敏春参事、湯川博之課長補佐、立川悟主査、田中元清（ランドブレイン株式会社取締役）、小暮昌史（ランドブレイン株式会社）

1 開会

企画財政課長より開会のあいさつ

2 委嘱状交付

間宮町長より委嘱状の交付

3 あいさつ

間宮町長よりあいさつ

4 議題

(1) 会長選出

- ・大井町総合計画審議会条例に基づき、委員の互選により、会長に熊澤委員が選出され、職務代理者に山地委員が指名された。

(2) 大井町第5次総合計画後期基本計画の策定について

- ・審議会の運営にあたり、資料及び議事概要を公開することについて了承された。
ただし、活発な議論を行うため、発言者氏名の公開は控えることを確認するとともに、傍聴の可否について完全非公開とすることを確認した。
- ・事務局より総合計画の構成やスケジュールについて説明（資料2、3）

【意見・質疑】

- 条例によると審議会は計画の策定及び必要な調査を行うこと、となっているが、今の開催では遅いのではない。これでは文面を修正するくらいしかできないのではないか。
→ これまでに行ってきたのは基礎データの収集であり、データがそろった段階からご意見をいただく、という流れで考えている。
- 総合計画はコンサルが作るものではなく、職員が策定するもの。コンサル会社が同じだと同じものができあがっていくのではないか。職員が自ら真剣に作っていくべきではないか。
→ 全てを職員で策定するというのは困難な部分があるので委託している。金太郎飴のような総合計画とならないようにご指摘を頂ければと考えている。

- 前期基本計画の目標に対して、取り組み成果がどの程度あったのか、そうした資料は今後示されるのか。人口減少をはじめとした諸課題に対する、これまでの取り組みや、現在の人口の動向等の資料が必要では。
- 次回の第2回委員会に置いて、前期基本計画で実施してきた施策の総括や人口動向等の資料をお示ししたい。

- ・町民アンケート調査結果、まちづくり会議結果の概要についてランドブレイン株式会社田中氏から説明（資料4、5）。

【意見・質疑】

- 町民アンケートの結果を見ると、買い物等の日常の生活圏は、大井町内と答えた方が前回の 11.5% から 53.4%に増えているがその要因をどのように考えているか。
 - 5年前と比べてショッピングセンターが新たに開店したことによると考えられる。
- ワークショップ形式で開催したまちづくり会議では人口減少について言及されなかったのか。平成21年を境に大井町の人口は減ってきている。町が何をしていくにも人口減少が最大の課題となる。町民アンケートの結果からも、そうした意見が出てきていないのでは。町のデータをPRすることも大切ではないか。
 - まちづくり会議では、人口減少を含めた現状を前提として、町に人が集まるような魅力や良いところは何か、といった視点でお聴きした。また、これからの不安として、人口減少という直接的な表現ではなく、コミュニティの希薄化や高齢者となった時の生活不安といった話が出された。町民アンケートの自由記述欄をみると、人口減少の問題や人口流出を止めるための雇用についてご意見、ご指摘をいただいている。
- アンケートやワークショップの結果は、後期基本計画にどのように反映されていくのか。実施計画レベルの細部には反映されることがあっても、既に基本構想や前期基本計画があるので、その流れの中で後期基本計画ができあがってしまうのではないか。
 - 必ずしも前期基本計画を全て踏襲するわけではない。全てを踏襲するのであれば、そもそも作る必要がない。変えていくべきところは変えていく。
- アンケートはどうしても誘導的になるので結果を全ては信じられない。ワークショップも同様であるが、そういったことは、なかったということで良いか。
 - 不足していると思われる質問項目はあっても、誘導したことはない。
- アンケート結果を見ると、普段の自治会で話に上ることと違っているように感じる。町政懇話会でも通学路の整備が意見に出ていたが、そうした選択肢はアンケートにない。最近では消滅可能性自治体としても大井町が取り上げられているが、そうした視点も調査から抜け落ちているのではないか。
 - 消滅可能性自治体として取り上げられたことは、今回の総合計画をつくるにあたり、かなり意識している。町政懇話会での意見を反映して、まちづくり会議に若い職員を投入し、若い町民の方や町外の視点として昭和女子大の学生にも参画いただいた。アンケート項目として人口減少という言葉は出していないが、今後、人口減少は不可避であり、同時に少子・高齢化が進むことを非常に意識している。しかしながら、そのことを表に出しすぎて元気がない総合計画を作っていくよりも、そうしたことを踏まえながらも、どうしていくかを示した計画にしていきたいと考えている。
- 将来、生産年齢人口が減少していくことを見通して、どういった方々に町に来てほしいのかターゲットを明確にする必要がある。独身者なのか既婚者なのか、共働きなのか、子どものいる家庭なのか。

そうした位置付けがあって、そのための施策が反映されてくると総合計画が見えてくるのではないかと。

- 人口を増やすなら、例えば、小田原市から呼び込もうというのであれば、どうしたら良いのかといった具体的なことを意識していく必要がある。
- 町が抱える課題には、町民が肌感覚で感じる大小の課題もあれば、行政の都合で考えた大小の課題もある。限られた資源に優先順位を付けて適正に配分していくためにもその尺度を共通化していく必要がある。例えば生産年齢人口の減少についても、別の側面から見れば、大井町の良い環境を活かして高齢者を集めていく中でまちづくりをしていくという考え方もできる。どうした町にしていきたいか、といった共通認識ができていかないと議論は集約していかないのではないかと。
→ 本日は、第1回の会議ということもあり、皆様からご意見をいただいた中から、今後の議論につなげていきたいと考えている。
- 前期基本計画には人口を指標として掲げられているが、この人口をどう評価するかが施策に反映されてくるのでは。
- 大井町の人口は計画が始まった平成23年度から減少を続けている。人口は最も基本的なことであり、町の税収にも関わってくる。税収が少なくなれば、様々な施策もできなくなってしまう。
- 後期の基本計画ということもあり、今までとは違った内容を期待したい。また、冊子にするときは、立派なものはいらないので、より簡素な印刷物にしても良いのでは。
- 人口減少に絡むが、近年、大井町の出生率が大きく低下していることも重要な課題ではないかと。
- 3月で課長は退職されるので、4月からは新たな課長が担当になるが、人が変わると今の議論も変わるということはないかと。
→ 委員の皆さまの中にも充て職により変わる方もいらっしゃるが、十分に引き継いでいただきたい。事務局も担当が変わったとしても十分に引き継いでいく。
- 人口減少や土地利用が大幅に変わってきているのと同様に、荒廃農地が増えてきていることも一つの大きな課題である。一次産業にどう対応していくのか。今後の議論を進めていくにあたり、様々な資料を出していただき、検討する課題を明確にしていく必要があるのでは。
→ 次回の審議会では、諸々のデータを提供させていただき、さらに議論を深めさせていただきたい。その後のスケジュールとして、議論を踏まえた計画の素案をお示しさせていただきたい。
- 前期基本計画をベースとしながら、人口減少に伴う対策、雇用関連、あるいは土地利用の関係をはじめ、前向きに考えていただき、そのためにどうした計画にするか、どういった文言が必要か、といった活発な議論にしていきたい。

(3) その他

事務局より第2回審議会の日程について説明し、3月24日（火）に開催することを確認した。

以上